



ユニセフハウスの訪問を生かした 学園祭での活動

報告者 東京学芸大学生協留学生委員会 佐藤 宏樹さん

ポイント

サークル（東京学芸大学生協留学委員会）で、ユニセフハウスを訪問しました。そこでの説明や体験を通して、多くの人が幸せになれる世界を目指して、世界の物産展・平和活動、そしてユニセフ活動のブースを作り、展示や説明を行いました。また、会場では、募金活動も行い、ユニセフに贈呈することもできました。

(1) ユニセフハウスを見学して

- ・ユニセフハウスの展示を見たことで、世界のニュースをより、身近なものとして考えることができるようになりました。特に、少年兵の話は衝撃的でした。自分でも調べてみたいと思いました。(MK)
- ・お話を伺っているとき、私自身世界で起きている現状にショックを受け、考えさせられることが多々あったので、非常に有意義な時間をすごせました。このユニセフハウスで学んだことを生かせるように、現状と向き合い、私たちにできることから、行動に移していきたいと考えます。(KA)

(2) 学園祭でのユニセフブース



ユニセフのブースでは、ユニセフで実際に体験した「ネパールの水がめの持ち運び」や「経口補水塩水の試飲」の計画をして、実際に準備をして、体験してもらいました。

(3) 学園祭を終えて

ユニセフハウスで学んだことを生かし、今年の学園祭では「募金」のみならず、子どもたちのおかれている現状やユニセフが行う活動の一端を「体験型」として伝えることができました。これからも、委員会内で学び、広く伝えていきたいと思います。(YK)

感想

来場者には、開発途上国の水事情を説明し、その後に水がめの重さを体験してもらいました。多くの方は、「こんな重たいものを1時間も子供たちが運んでいるなんて考えられない」とその重さを実感していました。また、経口補水塩水を飲用するコーナーでは「まずい」という方と「意外とよい」という方がいました。来場者は、4日間でおおよそ180名ほどでした。あわせて、募金も集まり、全額を寄付しました。これからも、自分たちだけが幸せな世界を考えるのではなく、多くの人が幸せになれるような世界を目指して、ユニセフ活動を続けていきたいと思っています。